

8日間・9会場に134名が参加

「町長室」出前懇談会を開催



2月9日から2月23日まで、町内9会場で、累積赤字解消後の町政課題の共通理解を深め、町ぐるみでその克服や解決を考えるまちづくりをめざす『町長室』出前懇談会が開催され、134名の町民の皆さんに参加いただきました。

今回の「町長室」出前懇談会では、『町の財政状況について』、『特別会計の赤字について』、『地域密着型特別養護老人ホームの建設誘致構想について』、『介護保険料について』の4つをテーマに、町長や町担当課職員からの説明と各地区の課題等の提起があり、参加者から活発な質疑や意見が交わされました。

参加いただいた町民の皆さんからいただいた質疑や提言などについては次ページに、町からお伝えした4つのテーマの概要は次のとおりです。

開催日程・出席者数

月日	会場	対象地区	参加人数
2月9日	野塚地区ふれあい交流館	野塚町	27名
2月10日	総合文化センター	美国町	15名
2月12日	神岬会館	神岬町	12名
2月12日	余別地区コミュニティセンター	余別町	21名
2月13日	婦美会館	婦美町 丸山町	7名
2月17日	入舸会館	入舸町	6名
2月18日	日司生活改善センター	日司町	22名
2月19日	来岸会館	来岸町 西河町	7名
2月23日	幌武意寿の家	幌武意町	17名
8日間	9会場	11地区	134名

※参加人数は議員を含む

1 町の財政状況について

累積赤字解消後のまちづくりの3つの共通課題を資料に基づき説明しました。

①健全財政の維持については、平成17年に10億4,600万円もの多額の累積赤字を抱えた町の財政を振り返りながら、「赤字」と「借金」の違い、借金の残高や推移、町にとって有利な「借金」の過疎・辺地

対策事業債の活用割合、基金積立残高（町の貯金）の推移や他町村との比較、地方交付税や

国・道の補助金への依存度合から見た財政構造などを説明しました。

②公共・行政サービス水準の維持向上については、近隣町村との水道・下水道料金や除排雪、福祉灯油助成事業やインフルエンザ予防接種事業などの町民負担の比較を行ったほか、更なるサービス向上のために現在実施している事業の状況について説明しました。

③地域の活性化ではまちの活性化に資する検討中の主な事業について説明しました。

たくさんの貴重な質問・提言をいただきました

『積丹町地域密着型特別養護老人ホーム』建設誘致に関する主なご意見・提言

- 経営赤字が出た場合、町が財政支援？
- 「憩いの広場」よりふさわしい場所は？
- 後志広域連合構成町村の住民や、余市町の待機者が入所したらず定員オーバーに？
- 町外入所者がこの施設に戻ったら、町の財政負担が増えるのか？
- 「やすらぎ」との違いは？
- 入所者は町民優先としてほしい！
- 施設入所者の負担額と、その基準は？
- 民設民営方式は良い選択だった。
- 積丹町に必要な不可欠な施設と考えていた。
- 早い年度でぜひ実現してほしい。

町の行財政に関する主なご意見・提言

- 岬の湯しゃこたんの赤字経営の今後の対策を！
- まちづくり支援事業を拡充し、町の活性化を！
- 小学校の統廃合についての検討は？
- 町内の空き家の将来的な対策は？
- 学校給食への地場産品の積極的活用を！
- 町の人口減少と高齢化対策は？
- 雇用の場づくりに、若年層主体のプロジェクトチームを作り、六次産業化など町の活性化対策を！
- 光回線を活用した町内のラジオ難聴対策を。
- 『町長室』出前懇談会』参加者数に工夫を。
- 海洋センターの有効利用と IP 電話の活用 PR を。

※この他にも多数の要望・意見をいただきました。町民の皆さんからいただいた貴重なご意見は今後の行財政運営に役立ててまいります。

2 特別会計の赤字について

平成25年度各会計決算から見た一般会計からの基準外繰入金（赤字補填）の大きさと収支の均衡が難しい温泉など特別会計の現状について説明しました。

3 「積丹町地域密着型特別養護老人ホーム」の建設誘致構想について

平成22年に約1,900人の町民の皆さんから議会に提出され、25年8月に採択された陳情を受けて、町が誘致活動に取り組んできた「地域密着型特別養護老人ホーム」の建設誘致構想について、経過と次の事項について説明しました。

■ 入所定員は29人以下であり、原則として後志広域連合構成町村の住民が利用できます。

■ 施設形態はサテライト型。同一法人の本体施設（フルーツ・シャトーよいち）と密接な運営を保ちつつ、別の場所で開催されるもので、単独設置と比較して国の施設基準等に緩和措置があります。

■ 施設の建設・運営は、社会福祉法人よいち福祉会（余市町）

が民設民営方式で行い、同法人の高い専門性や運営経験を活かす、介護職員の人材確保や育成などへの対応が期待できることから、最善の方法として選択しました。

■ 建設候補地は美国町のやすらぎ横「憩いの広場（旧テニスコート）」を予定。

■ 道内の類似施設規模から推計した事業費は約6億4千万〜7億円程と見込まれ、約1億4千万円と少ない国・道の補助金を補う町からの助成支援を予定しています。町が支援する財源としては、最も良質な過疎対策事業債（※）の採択活用を、国・道へ要望する予定です。

■ 実現に向けた町の主要な対応課題は、町有地の無償貸付、財政支援財源の確保、連絡路や障害物の除去等の整備のほか、当町との地域連携策の検討などで、平成27年度建設・28年度開

※過疎対策事業債

地方交付税で元利償還金の7割が措置される地方債。国・道交付金控除後の施設建設事業費で町が助成する額のうち、過疎債対象事業費の100%を借入可。

設の実現をめざし、町ぐるみで誘致に向けた取り組みを推進することです。

4 介護保険料について

第6期介護保険料（平成27〜29年度）から世帯の所得で異なる介護保険料が増額となることについて、介護保険料のしくみや今後の見通しなどを説明しました。

積丹町の今の介護保険料（平成24〜26年度）は、北後志5町村中最も低く、後志広域連合構成16町村中3番目に低い保険料でしたが、高齢化の進展に伴う居宅・施設サービス利用者数の増加や、介護保険適用施設の新増床等に伴う介護給付費の増大等に伴い、基準月額で約2千円程度増額となることが見込まれています。

また、平成26年度末までは連合構成町村それぞれの保険料が適用されてきましたが、平成27年度からは広域連合で統一した保険料となることについて説明し、理解と協力をお願いしました。